東京大学総合研究博物館特別展示

家畜

愛で、育て、屠る

ある極小馬の頭
「天皇の馬」として親しまれた馬がいた。
昭和から平成を生き、天寿を全う。
いま、博物館で第二の生涯を歩み始める…

遠藤秀紀
展示監督作品

2019 | 3/2 sat. — 6/30 sun.

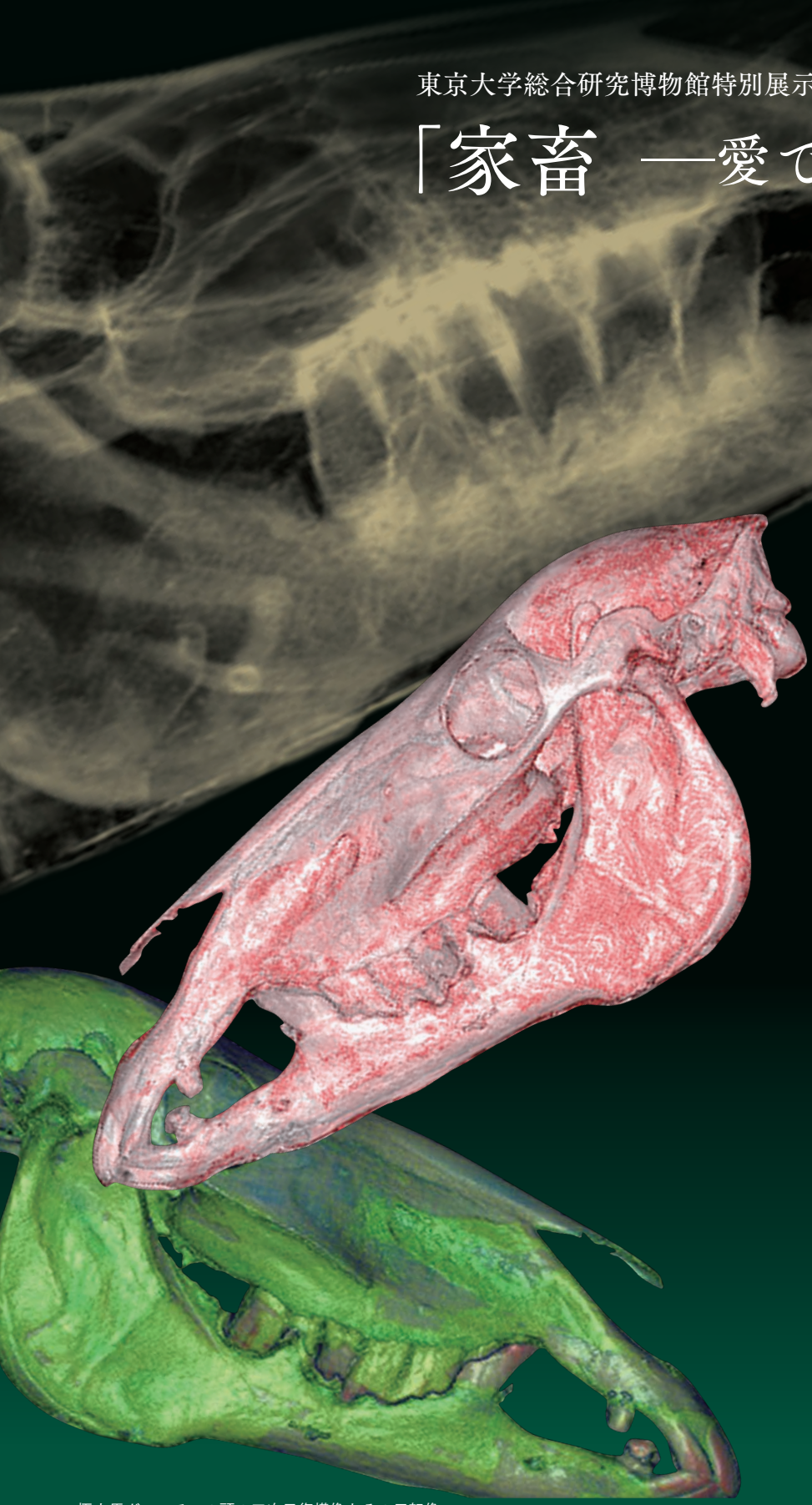
開館時間、休館日は、ホームページをご覧ください。

会　場　東京大学総合研究博物館
東京都文京区本郷7-3-1
ホームページ：http://www.um.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600

「土曜日の展示監督」
監督の立ち話会です。３月16日から５月４日までと、
６月８日から29日の毎週土曜日11時から。

東京大学総合研究博物館特別展示

「家畜 ―愛で、育て、屠る―」



極小馬ガルーチョの頭の三次元復構像とその反転像

私の仕事は、家畜とは何かを考えること。そして、家畜とともに在る人間の姿を抉り出すこと。今日は、人と家畜の間柄を問う熱狂を、誰かと交錯させたいと思った。問い続ける私の瞳に写るのは、いつも、愛で、育て、屠る、命だ。

展示監督　遠藤秀紀
（東京大学総合研究博物館教授）

監督助手　工藤光平、吉田将崇、武田精一郎

「人、家畜を創る」

人が家畜を創り始めて一万年以上。単に狩るだけでなく、単に飼うだけでなく、何かがとある動物を家畜の道に誘った。その何かを、人間の心の内に探す。

「どこまでも小さな馬を」

天皇の馬、愛称ファルーチョ、ガルーチョ。この世界最小品種こそ、小さな命を手にしたいという人間の、熱意の結晶である。

「巨牛をかたどる」

日本人の知らない巨獣を連れてきた。体重1200kg。巨体を手名付けてきたのは、欧州の人と風土である。世界最大の牛に、人間の執着心を問う。

「愛を独り占めにした鳥」

200億。地球上に生きる鶏の数である。美しい羽、奇怪な外貌、激しい闘争、そして肉と卵。人の飽くなき欲求が創り出した無数の命を、想う。

「土曜日の展示監督」

展示監督が悩むのは、家畜の生き様である。創られ、屠られるべく命を前に、今日も語ろう。

開催場所	**東京大学総合研究博物館** 東京都文京区本郷7-3-1
アクセス	地下鉄丸ノ内線・大江戸線本郷三丁目駅より徒歩
開催日時	３月2日㊏～６月30日㊐ 開館時間、休館日は、ホームページをご覧ください。
URL	東京大学総合研究博物館　http://www.um.u-tokyo.ac.jp
お問い合わせ	ハローダイヤル03-5777-8600

家畜展では、「土曜日の展示監督」を開催します。
展示監督遠藤秀紀による展示フロアでのお喋りです。3 月 16 日から 5 月 4 日までと、6 月 8 日から 29 日までの毎週土曜日、午前 11 時から、家畜や動物について、研究現場にまつわるお話を披露します。予約は不要です。

東京大学総合研究博物館は、4 月 27 日から 5 月 6 日の期間中も開館いたします。家畜展も期間中休みなく開催しています。